

テレビで年に何回か放送している「SASUKE」という「スポーツ番組」に、4年前から、私も挑戦を始めた。

どんな番組か簡単に説明しよう。野外アスレチックを究極に難しくした四つのステージを設け、参加者100人が、それを順番にクリアして行くのだ。難し過ぎて、最初のステージだけで9割ほどの選手が脱落する。最終ステージまで進んだ者は、ほんの僅（わず）かだ。

この「SASUKE」というスポーツの大きな特徴は、敵がないこと。やっつける相手がいない。大概のスポーツでは、勝ち負けが絡んで来るので、敵というモノが存在する。しかし「SASUKE」には存在しないのだ。闘っている相手は、あくまで自分自身である。頑張った分だけ、喜びが自分自身に返ってくるのである。

だからなのだろうか、選手も観客も全員が全員を応援している。本来ならば、敵であるべき相手を応援している。

他にこんなスポーツがあるだろうか……と考えた。

そうか！ 登山だ。たとえば、エベレスト登山だ。エベレストの山頂に立てるのはほんの僅かだ。しかも登頂できるかどうかも分からない。その僅かな可能性のために大勢の人間が努力し、登山を支える。「どうか辿（たど）り着

いてくれ！」と祈りさえする。その大きな思いが、それぞれの隊員のチカラになっていく。そして、ついにその祈りが通じ、登頂に成功したとき、登頂者だけでなく、その周りで応援した人々も歡喜に沸き、充実感を覚える。

そして「SASUKE」も成功者だけでなく、周りの人々も満足を得られるスポーツなのだ。そんなスポーツが私は大好きだ。

古人は、そんなスポーツを制した者をこう呼んだだろう。

「勇者」

【朝日新聞・マリオン】

2006年11月29日掲載